

第2回「こんにちは！市長です」開催概要

開催日：令和8年7月24日（金曜日）11時20分から12時30分

開催場所：三田市役所2号庁舎3階 2301会議室

参加者：「中学生サミット」参加の中学生（市立中学校8校の生徒会役員等各2名、計16名）

1 中学生から市長へ質問

中学生：どうして市長になろうと思ったのですか。

市長：三田市に住み、PTA会長や自治会長、高校の育友会の役員を務めたりする中で、もっと地域貢献をしていきたいと思ったことがきっかけ。三田市のことをより良くしていきたいという思いが強かったこともあり、立候補した。

中学生：市長は給料をたくさんもらっているのですか？

市長：市の特別職の給料・賞与は市ホームページや新聞に掲載されているが、年間で1,700万円くらい。

中学生：三田市の人口データを見ると、各地域で65歳以上が多くなっている。これからのことを考えて、若者が少しでも多くなる、若者が活躍することをどう考えていますか。

市長：子育てしている人への支援は、三田市は他市町よりも充実していると思っている。また、就職などでいったん三田市を離れた場合も、三田市に戻ってきてもらえるよう移住定住施策にも力を入れている。人口が減少すると税収も減っていくため、働く世代に移り住んでもらうことが必要だと考えている。

中学生：三田市の中学生に、どんな大人になってほしいと考えていますか。

市長：強く生きられる大人になってほしい。自分で物事を考えて、自分の意思で決めていくことが大切だ。たくさんの情報の中から自分で何を選ぶか、その力をつけてほしい。世の中のお金の流れ、お金の大切さと意義を今から学んでほしい。

中学生：AIを使ったアプリなどが世界的にもどんどん増えているが、三田市として、それらをこどもの身近にもっと取り入れていきたいと考えていますか。

市長：以前、大阪教育大学とAI対話型アプリの「MIRAIノート」について、試験的に実証した。今後、継続はしないものの、一定良い評価を得ている。良いものであれば、AIを取り入れていきたい思いはある。

中学生：20～30年後、三田市はどんなまちになっているか、予測はありますか。

市長：かつて20万人都市を目指していた時代の公共施設をそのまま更新していくと、市のお金が足りなくなる。また、人口が減少していく中で、学校の統廃合なども進めていく必要がある。そういった中でも、全ての人たちが幸せな暮らしができるまち、明るく元気な三田を目指したい。

中学生：市長をしていて、一番良かったと思う瞬間は。

市長：自分が市長にならないと実現できなかったことが実現した時に、一番良かったと思う。これからも様々なことに取り組んでいきたいと考えているが、「公」と「民」が一緒にやっていかなくては、行政は立ち行かないと思っている。これまでも、神戸大学や神姫バス株式会社、イオン株式会社など包括連携協定を結んできた。信用があり力のある企業と協定を結び、お互いに win-win の関係の中で、地域の経済発展・課題解決を推進する。そのパートナーを増やしていきたい。

中学生：市長になる前と後で、税金に対する思いの違いはありますか。

市長：市長になる前は納税している中で、何のサービスを享受しているのか分からないという思いはあった。今は、みなさんに納税いただいているという感謝がある。大切に使う必要があるが、その使い道を分かりやすく伝えることが大切だと思う。

中学生：市長として、様々なことを決断するにあたって一番大切にしていることは何ですか。

市長：誰しも本音と建前があると思うが、まちづくりについてどうあるべきかを毎日考えている中で、建前と本音の区別なく、ただただ「こうあるべきだ」というものが浮かぶようになり、「市長どうですか」と聞かれた時に、判断に迷わなくなってきた。当事者の方が、何を喜ぶか考えながら判断することを大切にしている。

中学生：市長にとっての三田市の魅力は何ですか。

市長：三田市は「田園都市」を掲げてきたが、自然が豊かで、こんなにも「田園都市」にふさわしいまち他にはないのではないかなと思う。都市と自然との融合が見事だと思う。「子育てしやすい自治体ランキング（東洋経済オンライン）」で、大阪圏で1番になった。これは、自然、商業施設、医療機関、公共交通、治安、教育水準など、総合得点が高く、評価された結果だ。

中学生：人生を通しての、三田市での一番の思い出は何ですか。

市長：私は生まれが神戸市だが、こんなところで子育てできたらいいな、という思いから三田市に家を買った。しかし、しばらくは仕事の都合で三田に住めなかったが、やっと住めるようになり、とても嬉しかった記憶がある。

中学生：三田の一番好きな場所はどこですか。

市長：ウッディタウン、フラワータウンの街並みがとても綺麗だ。有馬富士公園もいいし、農村地域の風景もとても心が和む。たくさんあって選びきれないのが正直なところだ。

中学生：4月から体育館やテニスコートなどの利用料金の値上げがあったが、部活動が地域移行する中で、利用料の学割の制度を設けるなど、学生がより運動しやすい環境を作ってほしい。

市長：施設維持や修繕などにお金がかかるため、利用料の値上げは、利用している人・していない人に不公平が生じないように、応益負担の考えのもと実施している。減免については、実態とニーズに応じて今後検討していきたいと考えている。

2 市長から中学生へ質問

市長：こどもたちがスマホを自由に使うことは様々な課題があると思っているが、みんなはどう思っていますか。

中学生：スマホを持たないことも大切かもしれないが、LINEのアプリを使うと、会話ができるのでとても便利だと思う。

中学生：スマホを手に入れると、ずっと使っている子もいる。それぞれ自分に合ったルールを作ることが大切だと思う。

中学生：スマホのルールを作ることも大事だと思うが、スマホは便利なものであることは事実なので、ただ単に制限するだけでなく、使い方を誤らないよう自分で考えることが大切だと思う。

いただいたご意見・ご提案は今後の市政運営の参考にさせていただきます。